

府障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

2016年度 大阪スタート集会

7月13日、大阪の障害児教育をよくする会「をはじめ、大阪府立高校30人学級をすすめる会」「大阪市立高校30人学級をすすめる会」「大阪私学助成をすすめる会」「子どもと教育・文化を守る大阪府民会議」の5団体が共同で毎年とりにくんでいる「教育全国署名のスタート集会が開催されました。集会のオープニングでは大阪府立東高校ジャグリング同好会の高校生4人が迎えられ、軽快なリズムに乗った巧みな演技を披露して集会を盛り上げてくれました。

子どもたちが戦争に行くことのない世の中に

今年のスタート集会は、参議院選挙の投票の結果、改憲を推進する勢力が3分の2を超える議席を獲得した直後

の開催となりました。開会あいさつを行った、府立高校30人学級をすすめる会の小橋川会長は、「子どもたちが戦争に行くことのない世の中にしていかなければならないと強く感じた」と訴えました。

また、府立高校つばしに反対する運動の中で、府立高校の30人学級をすすめる会にも新たな仲間が加わったこと、紹介して、今年も大阪の5団体の皆さんと力を合わせて頑張りたい」と力強く決意を語りました。



あいさつする小橋川会長

どの子どもについても楽しく居心地のいい学級づくり



講演する宮本さん

力が不十分な1年生は、学級の安心できる友達との楽しいとりくみやゆるんな経験の中で、こだわりが軽減されていきました。コマ回しが得意な3年生は、友達にほめられて自信をつけ、苦手な勉強も頑張れるようになりました。

また、自分の思いを言葉で表現する力が弱いために、すぐに切れて友達を罵倒したり暴力を振るったりしていた4年生男子は、言葉の力を育むとりくみの中で落ち着いていきました。彼が、平和教材である、一つの花(今西祐行著)の授業の感想で「せんそうなんてしたらあかん」と書けるようになった。Eピソードは感動的でした。



ジャグリング同好会の演技

心にゆとりをもって子どもたちに向き合えるように

必要だと述べて講演を終えました。

多くの大阪の子どもたちは、貧困と格差の広がり、苦しめられ、学ぶ権利を奪われている実態があります。府障教は、こうした状況を改善して教育条件整備を少しでも前に進めるために、今年も教育全国署名への協力を教職員、の皆さんに呼びかけます。

府障教ホームページアドレス <http://www1a.biglobe.ne.jp/fushou/>

Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



雑誌「暮らしの手帖」は終戦から3年後の1948年に産声をあげました。創刊号は96ページで定価は110円。内容は着物で洋服を作る生地の裁ち方や、自分で作れるアクセサリなど、暮らしが楽しくなるものばかりでした。他にも川端康成氏の小説、影絵作家藤城清治氏の「指人形の作り方」など盛りだくさんです。

あとがきには、「生きてゆくのが命がけの明け暮れがつづいていきます。せめて、その日々に、ちいさな、かすかな灯をともすことが出来たら」とありました。辺り一面焼け野原で、主食もまた配給制の時代です。

名編集長といわれた花森安治さんと、社主で編集者でもあった大橋鎮子さんは、放送中のNHKドラマ「と姉ちゃん」のモデルです。大政翼賛会の宣伝部について、進め一億火の玉だなどの標語を世に出した花森さんと、女の人たちのための出版をしたと強く願っていた大橋さんは、「戦争をしない世の中にしていくための雑誌作りを始めました。」

お二人は終戦直後の焼け野原の中で、毎日の暮らしはとて大切なもの。たとえ戦争であっても踏みに行かなければならないと誓い合います。モノが無い時代でも、美しく豊かに暮らすことを工夫をもとにした雑誌作り、とても大きな志です。戦後70年がたった今、100円ショップもあり当時の暮らしとは大きく変化しました。と姉ちゃん」のプロデューサーは、「彼らが生きた足跡、人間としての基本的な姿が私たちに何かを語ってくれる」と、大橋さんと花森さんの志に共感したことが企画の決め手だったと語っています。

「ストレスチェック制度」に魂をいれるのは労働組合

府障教健康対策委員会学習会

府障教健康対策委員会では7月15日、重田博正さん（大阪社会医学研究所）を講師に迎え、「ストレスチェック制度と職場改善」と題する講演を聞き、今年から始まる「ストレスチェック制度」の目的や実施方法、また制度をどのように活用し、確立させていくのかを学習しました。

未然防止と、ストレス要因の低減努力を使用者に求めた制度

ストレスチェックは、2015年12月1日に公布された労働安全衛生法の一部を改正する法律により新たに設けられた制度で、事業者に労働者のストレスチェックと面接指導の実施等を義務づけています。

厚労省の「心理的な負担の程度を把握するための検査及び面接指導の実施並びに面接指導結果に基づき事業者が講ずべき措置に関する指針」では、以下の3点を制度の基本的な考え方としています。それは、自らのストレス状況への気づきを促し、個々の労働者のストレスを低減させる結果の集団ごとの分析で、

職場のストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげることで、ストレス要因そのものの低減努力を事業者に求める、高ストレス者を早期発見し、医師による面接指導につなげる、といったものです。

また、厚労省は「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル」の中で、「不調者の発見を一義的な目的とはしないという趣旨を…周知する方法」を記すとともに、「個人情報保護の観点や、結果による不利益扱いの禁止などを基本にしています。そのため、職業性ストレス簡易調査票（以下、調査票）の提出はもちろろん、医師による面

接指導の申し出についても労働者本人の「任意」とされています。

重田さんは、厚労省が「制度の基本的な考え方」として「メンタル不調の未然防止」「次予防（強化）」「職場のストレス要因を評価し低減すること」とを明確にしたことは、安全

衛生活動の現状から見れば飛躍的な前進であると評価しました。同時に、「この制度が個人のストレス状況の気づき」で終わってはならず、「集団分析の結果から仕事のストレス要因や職場集団のありかたについて考え、職場改善につなげていくことが重要である」と強調しました。

結果の集団分析を重視し、職場環境改善に生かすべき制度

重田さんは「調査票」について、仕事のストレスの集団的特性を分析するツールとして開発されたもので、個人の診断が主目的ではないことを強調しました。その上で、制度の運用にあたって懸念されることとして、もっぱら高ストレス者の面接指導の制度として運用され、職場環境改善がおろそかになることをあげました。

ストレスチェック制度の実施にあたっては、結果の集団分析を踏まえて職場のストレス要因を明らかにし、使用者に職場環境の改善を求めていくことが重要である、そのため

にも教職員に対して、制度本来の目的は何かを周知し、「調査票」の提出を呼びかけるとともに、集団分析で明らかになった職場の具体的問題を、職場の安全衛生委員会等で議論して、職場ごとの課題を明らかにする必要があります。

重田さんは、府障教がこうした役割を果たすべきではないかと参加者を励まし、制度を確立させる責任はあくまで使用者（府教委）にあるが、制度に魂をいれるのは労働組合であると強調しました。

先輩に聞こう！

Vol.10

「日の丸・君が代」は、なぜだめなんですか？
匿名 青年教職員

（その3）

「日の丸・君が代」の争点は、歴史的背景、思想・良心の自由、教育権の主体、教育と命令に大別できます。これまでに述べましたが、今回は、

「君が代」の歌詞の出典は「古今和歌集」で、1880年に「海軍省」の依頼で作曲されました。「日の丸」は1870年、太政官布告で「陸海軍が掲げる国旗」として定めたのが最初です。「日の丸」には、日本による侵略戦争の旗印としての、「君が代」には、それを支える天皇による日本統治をたたえる役割がありました。

歴史的事実から、「日の丸・君が代」に否定的感情を抱く国民が存在し、その感情に私は共感します。第二次世界大戦の侵略国であったドイツとイタリアは、当時と同じ旗を国旗としていません。

「死者は生者に義務を課す」という言葉があります。戦中、障害者は「穀潰し」と罵られ、無権利状態で放置されました。戦争によって、自らの人生、愛する人と生きる未来を奪われた人がたくさんいます。「戦争反対」と言葉にするだけで「逮捕・監禁・拷問」された日本の暗黒時代、多くの人が「お国のため」と命を終わりました。しかし、「お国のため」は、亡くなった人たちの「本当の願い」だったのでしょうか。教師は「生者」として、この「本当の願い」に心を寄せることが大切です。

マカレンコは「愛と規律の家庭教育」において次のように述べました。「私たちの子どもは、とりもなおさず私たちの晩年である。正しい教育こそは、私たちのしあわせな晩年であり、悪い教育こそは、私たちののちの悲しみであり、それは私たちの涙の種であり、それは他の人たち、国全体に対する罪となるのである」

マカレンコが指摘する「正しい教育」とはどのような教育でしょう。子どもの人格形成という崇高な職務に就く青年教職員のみなさん、「日の丸・君が代」の歴史にどのように向き合い、子どもたちに何を伝えますか？

（田崎尚弘 藤井寺支援学校分会 30年目）